平成二十一年度福祉体験作文コンクール優秀作品

愛知県社会福祉協議会の主催により、福祉活動やボランティア活動について児童・生徒から588編の福祉体験作文がよせられ、その結果、県内で25の優秀作品が選ばれました。一宮市からも浅野小学校3年の寶﨑大悟さん、北部中学校1年の服部桃子さん、木曽川中学校3年の大橋央弥さんの作品が入選されましたので、その中から一編ご紹介します。

（平成二十一年度の学年です。）

じどうデイサービスに行って

一宮市立浅野小学校　三年
寶﨑　大悟

八月九日、ぼくはじどうデイサービス「そえぎ」にお手つだいに行きました。

じどうデイサービスという所は、ようじから中学生ぐらいまでのしょうがいのある子供たちがスタッフさんにあそんでもらったり、生活にひつような事を教えてもらったりする所です。

なぜぼくが「そえぎ」さんにお手つだいに行ったかというと、いつもぼくの弟がお世話になっていて、いつもどのように、すごしているのか知りたかったからです。

ぼくが、どんなお手つだいをしたかというと、プールあそびのきがえができない子にはきがえを手つだってあげたり、おやつのじゅんびを手つだったり、いっしょにあそんだりしました。

少しの時間だったけれど、いつも弟が「そえぎ」さんでスタッフのみなさんに、やさしくお世話してもらえているということがよくわかりました。

弟は時どきパニックをおこすので、弟がいるとできない事がたくさんあります。けど、「そえぎ」さんにあずかってもらっている時はいつもできない事ができます。ぼくがいつもできない事ができるのは、「そえぎ」さんのような所があるからだと思いました。

弟が「そえぎ」さんにやさしくしてもらっているようにぼくも今までよりもやさしくしようと思いました。

いつか弟がおちついて家族みんなでいろんな場所へいけるといいなと思いました。

なので弟が「そえぎ」さんでがんばってる間、ぼくもべん強や運動をがんばろうと思いました。